

教諭・学校関係者の皆様へ

『神様のパッチワーク』から学ぶ幸せの形 ～いろいろな家族の形について学ぼう～

動画を使った特別授業のゴール・ポイント・進め方のご案内

現代日本において、離婚して離れて暮らしているご家庭や再婚家庭など、様々な形の家族が少しずつ増えています。本授業では書籍『神様のパッチワーク』の物語を通じて、子どもたちが、血のつながりによる家族だけではなく、色んな形があることを知り、お互いを大切に思う気持ちを育むことを目的に、動画とワークシートをご用意しています。是非あわせてご活用ください。

1. 授業のゴール

- ① 血のつながりだけでない家族の形があり、自分とは違うものを排除するのではなく、受け入れ、大切に思うことの重要性を知る。
- ② 将来の選択肢の一つとして、特別養子縁組制度という制度があることを知る。

2. 【前提知識】特別養子縁組制度とは

- 特別養子縁組制度とは
さまざまな事情により生みの親のもとでは暮らせない子どもを、自分の子どもとして迎え入れる制度が「特別養子縁組制度」です。法的な親子関係を結ぶため、子どもが生涯にわたり安定した家庭を得ることができます。
- 「普通養子縁組」や「里親」とは何が違うの？
養子縁組制度には、「特別養子縁組」と「普通養子縁組」があります。
「特別養子縁組」は、実親（生みの親）との法的な親子関係が解消され、戸籍の表記は実の親子とほとんど変わらないのが特徴の制度です。
「普通養子縁組」は、実親（生みの親）との法的な親子関係は残り、戸籍上に生みの親の名前も併記され、実親と養子との間で法律上の関係が残ります。
「里親」は、生みの親に代わり、一定期間子どもを育てる制度です。子どもとの間に法的な親子関係はありません。（下記図をご参照ください）

	養子縁組制度		里親制度
	特別養子縁組	普通養子縁組	
戸籍の表記	長男(長女)	養子(養女)	—
子どもの年齢	原則として15歳未満	制限なし (ただし、育ての親より年下であること)	原則として18歳まで (必要な場合は20歳まで)
迎え入れる親の年齢	原則として25歳以上の夫婦 (ただし、一方が25歳以上であれば、一方は20歳以上でも良い)	20歳以上	制限なし
縁組の成立	家庭裁判所が決定	育ての親と子どもの親権者の同意 (15歳以上は自分の意思で縁組ができる)	児童相談所からの委託
関係の解消(離縁)	原則として認められない	認められる	生みの親の元に戻るか自立する

3. 授業の進め方

本授業は、ビデオ(2種類)と、その中に出てくる設問に対応するワークシートで授業が出来るように構成しています。ビデオ視聴は1種類だけでも、2種類を組み合わせても理解目的や理解までの授業内容は変わりません。時間やご都合に応じて使い分けてください。

ビデオ①特別養子縁組制度を知ろう・血のつながり以外にも家族の形があることを知ろう(約20分)

※ビデオ①では、特別養子縁組を利用している久保田智子さんと、作家の山本悦子先生のお話をもとに、制度がなぜあるのか、血のつながりは家族の必須条件ではないことを、ワークシートの設問に沿って解説します。

☆ 【先生からの説明】導入

・授業テーマ「特別養子縁組制度について知ろう」と授業の進め方について説明します。

☆ 【ビデオ視聴】前半:特別養子縁組制度を知ろう ビデオI 00:00~09:40

- ・ビデオを見ながらワークシートP2の「問2」を記入するように促します。
- ・スライド「血のつながり以外にも家族の形があることを知ろう」が表示されたらビデオを止めて記入の時間を設けてください。表示時間=ビデオI 09:41

◇ 【ワークシートを使った振り返り】

問2 この制度の一番大切なところは何ですか？ ビデオ1 07:12

解答例： 子どもにとって幸せな環境をつくるということ
育ての親や産みの親にとっても幸せにつながることもある

※ビデオの中で久保田さんが仰っていますが、この制度の一番大切なところは「子どもにとって幸せな環境をつくる」ということです。子どもを育てたい親にとっても、育てることができなかった親にとっても、幸せな選択の一つになりえる制度です。

◇ ビデオ視聴(後半:血のつながり以外にも家族の形があることを知ろう) ビデオ1 09:41~20:26

- ・視聴しながらワークシートP2の問3・4を記入するように促してください。
- ・ビデオは最後まで視聴すると、より理解が深まります。

※特別養子縁組制度は、子どもが幸せに暮らしていくための制度です。親があとつぎなどの利益目的に特別養子縁組をすることは、子どもの可能性や人権を制限することになるため、認められていません。ビデオを視聴した後に、補足説明いただけますと幸いです。

◇ 【ワークシートを使った振り返り】

問3 クラスメイトとあかねの考え方はなぜ違うのでしょうか？ ビデオ1 11:05

解答例：

クラスメイトは・・・結の家族を小さい頃から見知っているので、血が繋がらなくても家族に大事にされ仲良く暮らしていることを知っているから

あかねは・・・結の家族のことをよく知らないで血が繋がらないことはかわいそう、不幸だと思っている

※あかねは心配で(善意で)言っているのに、クラスメイトはそもそも「心配」と感じていないことに、認識の違いがあることを伝えてください。世間の前提や自分の考えが必ずしも一般的なものではない=それぞれの考え方がありますが、この場面のポイントになります。

問4 あかねは結を不幸だと思い込んでいましたが、そのように決めつけてしまわないためには、
どんなことが大事だと思いますか？ ビデオ1 16:43

解答例：誤解があったときに友達や家族と話ができること

これってどういうことだろうと考えたり関心を持ったりすること

相手の立場に立って考え、思いやること など

※さまざまな家族の形があり、その状況に置かれた子どもたちは色々なことを感じています。

結のようにクラスのみんなが知っていることもあれば、周りには言いたくないという子どももいると思います。ここでは自分とは違うものを排除するのではなく、受け入れ、思いやりをもって接することの大切さを伝えてください。

◇ **【グループワーク】 ※動画視聴後、時間があれば**

テーマ例： 特別養子縁組制度について知って、どう思いましたか？

制度について分かったこと、分からなかったこと、感想などをグループで話し合い、発表する。

- ・子どもにとって血がつながっていることも大事だけど、自分のことを思ってくれる人と一緒に暮らすことが大事だ、ということに目を向けていただけるように、声をかけてあげてください。
- ・また、子どもを産むことができない方にとって子どもを育てることで子どもと一緒に幸せになるための制度であることもポイントのひとつです。
- ・今の家庭で安心して過ごすことができている児童の場合、今自分が親と切り離されて違う大人の元で暮らさないといけなくなることを考えてしまうかもしれません。その場合、親が子どもを手放したいと思ったときに手放せる制度でも、誰かの家庭の子どもをもらってくることができる制度でも無く、子どものためにどうしても育てることができない場合に、育てることができる大人のもとで安心して暮らすことができる制度であることを改めてお伝えください。
- ・なぜ産んでくれたお母さんのもとで育つことができないのだろうという質問が挙がった場合は、児童の年齢に応じて病気などさまざまな理由があることを説明してあげてください。

ビデオ② 色々な家族の形を知ろう・それぞれの家族の形、幸せの形があることを知ろう (約18分)

※ビデオ②では、特別養子縁組を利用している久保田智子さんと、作家の山本悦子先生のお話をもとに、家族の形や幸せの形がひとつではないことを学んでいきます。

◇ 【先生からの説明】導入

- ・前半の振り返りと授業テーマ「いろいろな家族の形を知ろう」について説明

◇ 【ビデオ視聴】前半:いろいろな家族の形を知ろう ビデオ2 00:00~05:15

- ・ビデオを見ながらワークシート P3の問1を記入するように促してください。
- ・スライド「それぞれの家族の形、幸せの形があるということを知ろう」が表示されたらビデオを止めてください。表示時間 ビデオ2 05:16

◇ 【ワークシートを使った振り返り】

問1 動画に出てきたいろいろな家族のかたちを書き出してみよう ビデオ2 1:05

解答例:

- ・シングルファミリー (お父さん、お母さんのどちらかがいる)
- ・ステップファミリー (お父さん、お母さんが再婚をして新しい家族ができた)
- ・同性同士のファミリー
- ・国籍が異なるファミリー ……など

※「家族」に規定や規則がないことを伝えてください。マンガやアニメなど、フィクションに出てくる「家族」の事例を出していただくのでも理解が深まりやすくなります。

※あまり児童各自の家庭の話にはならないように、ご配慮をお願いします。

◇ 【ビデオ視聴】後半:それぞれの家族の形、幸せの形があることを知ろう ビデオ2 05:16~17:25

- ・視聴しながらワークシート P3の問2を記入するように促してください。
- ・ビデオは最後まで視聴すると、より理解が深まります。

◇ **【ワークシートを使った振り返り】**

問2 なぜ、結の家族は「パッチワーク」なのでしょう？また、なぜお父さんは、家族が「神様のえりすぐりの布で作った最高のパッチワークだ」と思っているのでしょうか？ ビデオ2 07:22

解答例：

- ・パッチワークそのものが家族で、一枚一枚の布がそれぞれの子どもたちを表している。
小さな布を縫い合わせて作るパッチワークのように、血がつながってなくても一つの家族になり、新しい幸せの形を作ることができる。
 - ・お父さんは、結と香が来てくれたことは運命で、最高の家族だと思っている。
- ※家族がお互いに思いやってきた時間が結の家族を作ったという考え方も、神様が血のつながりとは関係なく家族みんなを引き合わせてくれたという考え方など、様々な意見があると思います。
- ※子どもたちに自由に回答させた後、家族は血のつながりに関わらず日々の関わりの中で作り上げていくものであり、いろいろな幸せの形があってよいということを伝えてください。

◇ **【グループワーク】 ※動画視聴後、時間があれば**

テーマ2 動画では、さまざまな家族の形があることを伝えています。

あなたはこの動画を見て、どんなことを学びましたか？

この動画を見て学んだことをグループで話し合い、発表する。

※授業の振り返りとして、動画を見て学んだこと、気付いたこと、感じたことを自由に回答させてください。

4. 各児童への配慮のお願い

児童の中には様々な事情を抱えている場合もあると思います。離婚している、虐待を受けている、親が病気、児童養護施設や里親家庭で暮らしているなどの事情です。また、そういった事情を先生や周囲に伝えられる児童もいれば、伝えたくない児童もいると思います。こういった家庭の話をする、場合によっては周囲の児童の家庭との違いから改めてつらい思いをする児童もいると思いますので、いつも以上の繊細なご配慮をいただけますと幸いです。場合によってはスクールカウンセラーや児童相談所、外部の相談窓口などに相談できることを伝えていただけますと幸いです。また、グループワークの中で無理に各自の家庭の状況を伝えさせる、親への感謝を発表させるなどといったことは無いように配慮していただけますと幸いです。